点検・評価委員会

平成29年度の点検・評価委員会は、例年の年度計画の点検評価、人文学部年報の作成を中心に、研究者情報管理システムの更新を依頼した。

まず、第1回会議（5月10日）において、正副委員長の選出および本委員会の主な業務の確認の後、前年度の業務活動の結果と今年度の主な活動計画について説明を行った。特に、例年作成が遅れている人文学部年報についての早期公表に向けて、今年度のスケジュール案と必要な予算案が前年度の委員から紹介され、作業概要の引き継ぎを、委員全体で行った。その後、本年度の業務分担について検討を行い、人文学部年報の取りまとめを1年目委員と2年目委員の2人で担当し、1年目委員が中心となって業務の遂行にあたること、年報記事のPDF化費用として、19万円を予算施設委員会に請求することを決定した。また、その他、本年度の主な業務である年度計画の点検作業については、第3期計画分より、委員長が学部執行部に属するため、委員長が取りまとめて作業依頼および取りまとめを行うこととし、必要に応じて、各委員に協力の依頼を行うことで了解が得られた。

1. 年度計画

年度計画の評価報告は、9月の中間報告、1月の暫定報告、3月の最終報告に分けて、各学科長および関係委員会の委員長に、ウェブ上の「中期計画進行管理システム」に必要事項を入力依頼のうえ、記載事項をもとに、学部の「特色ある取り組み」「機能強化の取り組み」を取りまとめた。年度計画の進行状況は、全学的に懸案となっている一部の事項を除いて順調であり、特色ある取り組みとして、以下の事項を取り上げた。

① 学部改組に伴うメジャー・サブメジャー制の運用とアンケート調査
② 学部FDと年度計画の第三者評価のためのアドバイザリーボードの年2回開催
③ 授業における常磐大学・県歴史館、研究における宇都宮大学・福島大学との連携
④ 大学院社会人学び直しコースの導入と運用に関わる広報活動
⑤ 市民共創教育研究センターによる各種研究報告会およびシンポジウムの開催
⑥ その他、歴史系教員による地域史シンポジウム・集中曝涼への協力活動

2. 人文学部年報

人文学部年報は、教員個人記事は、教員業務評価とあわせて、前学期中に研究者情報管理システムの更新を行ってもらったものの、委員会活動報告の記事提出が遅れた委員会があったため、作成作業が年末におよび、またその他の原稿の収集にも十分な時間が取れなかったために、年度内ぎりぎりに完了に至った。

来年度以降は、新学部（人文社会学部）年報となることと、研究者情報管理システムの変更に伴い、教員個人記事の掲載は取りやめることとし、掲載内容を学部の教務・学生お

よび委員会活動報告に限定し、早期完成と掲載にかかる予算の削減をはかることとした。

平成 29 年度点検・評価委員会委員長：古屋等